

学年：5年	単元名：16. 変わり方調べ －変わり方を調べよう（2）－
-------	----------------------------------

1. 単元目標：（全 1 時間）

○伴って変わる 2 つの数量について、表や式、図を用いて変化や対応の特徴を調べたり表したりすることができるようにするとともに、伴って変わる 2 つの数量を見出して、それらの関係に着目し、表や式、図を用いて変化や対応の特徴について考える力を養うとともに、伴って変わる 2 つの数量の変化や対応の特徴を数学的表現を用いて考えた過程を振り返り、そのよさに気づき今後の学習に活用しようとする態度を養う。

考判表・対応する数値を表した表から対応の規則性を式に表し、その式の意味を考える。

知・技・問題場面を表に表すことができる。

・関係を式に表すことができる。

2. 指導内容

- ・図、表、式を用いて数量の規則性を見つける問題解決

3. 指導のポイント

○きまりを表に表す

- ・実際の数値を当てはめて、表を作りそこからきまりを見つけるようにする。

表には、必ず「縦のきまり・横のきまり」がある。

横のきまり：言葉での表現になる。随時答えを出していく必要がある。

縦のきまり：式に表すことができる。

4. 指導にあたって

①子どもたちにどんな見方や考え方を獲得させたいか。

②それを通してどんな子どもに育てたいか。

長さの等しいぼうで正方形をつくり、横にならべて行きます。正方形の数とぼうの数は、どんな関係になるでしょう。



正方形の数(□)	1	2	3	4	5	6	7	8	9
ぼうの数(○)									

①ぼうの数を入れて表を完成しましょう。

②表を横に見ましょう。正方形の数が、1つ増えるとぼうの数は、いくつ増えますか。

③ぼうの数は、正方形の数に比例していますか。

③表をたてに見ましょう。正方形の数(□)とぼう数(○)には、どんな関係があるでしょう。
2種類の言葉の式に表しましょう。

㊦ぼうの数(○) = 1 +

正方形の数(□)	1	2	3
ぼうの数(○)	$1+3\times 1$	$1+3\times ()$	$1+3\times ()$

㊧ぼうの数(○) = 4 +

正方形の数(□)	1	2	3
ぼうの数(○)	$4+3\times ()$	$4+3\times ()$	$4+3\times ()$

④正方形が、30 このときぼうは、何本いりますか。また、50 このときは、何本いりますか。

㊨30 このとき

50 このとき

表は、
横に見ると、きまりは、言葉で表します。順に答えを出していきます
たてにみると、きまりは、式になります。だから、順に答えを求めなくてもできます。